

1. 実施目的

国産材の流通は、原木を加工して様々な木材製品を製造・販売することで、消費者・実需者による木材利用を可能としている。原木は、木材流通業者を介し、又は直接取引を通じて、製材工場、合板工場、木材チップ工場で加工される。その中には、集成材工場やプレカット工場で二次加工され、これらにより加工された製品は、住宅メーカー、公務店などの実需者に供給され、最終的には住宅を始めたとした建築物等として消費者に利用される。これら事業者間の木材の移動には、トラック等による輸送が欠かせず、木材流通の実態や課題、それらへの対応を考える上で大変重要な分野である。加えて、今後、森林・林業基本計画に掲げる国産材の供給増の目標達成に向けた対応を行うことも考えると、木材産業の一プレーヤーとして、素材生産、木材加工、木材流通等の各分野と同様に、木材輸送事業の発展が欠かせない。

また、原木価格における内訳を見ると、運材(山土場から原木市場まで)及び流通(市場経費に原木市場から木材加工工場まで)コストがある程度を占めている。山元への還元を可能とし、持続可能な林業経営を可能とする木材価格を議論するためには、運材・流通コストについての議論も必要となる。

このように木材産業において、輸送事業は非常に重要な要素であるにも関わらず、その実態については十分に把握されておらず、原木及び木材製品の輸送の実態について多角的に把握した上で、木材輸送に関わる課題を抽出し、その対応について検討する必要がある。

このため、本事業は、事業者へのヒアリング等を通じて、原木及び木材製品が需要者に届くまでの輸送距離や輸送コストの実態、輸送効率化のための取組事例等について調査し、その結果から今後検討すべき課題を抽出することを目的として実施する。

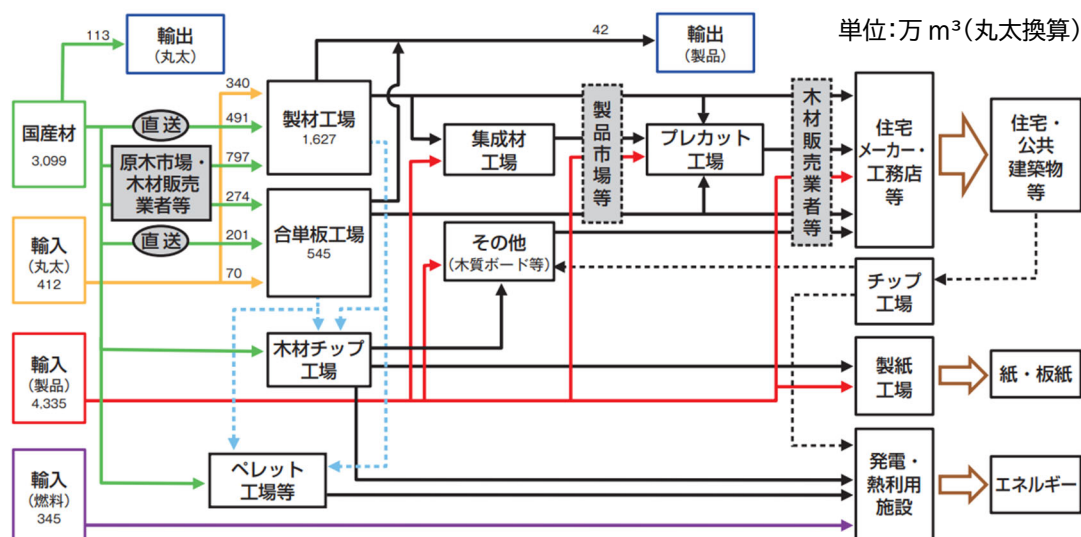


図 1 木材加工・流通の概要

注)1: 主な加工・加工・流通について図示。また、図中の数値は令和元(2019)年の数値で、統計上把握できるものを記載している。

2: 「直送」を通過する矢印には、製材工場及び合単板工場が入荷した原木のうち、素材生産業者等から直接入荷した原木のほか、原木市場・木材販売業者等との間で事前に取り決めた素材の数量、造材方法等に基づき、市場の土場を経由せず、伐採現場や中間土場から直接入荷した原木が含まれる。

3: 点線の枠を通過する矢印には、これらを経由しない木材の流通も含まれる。また、その他の矢印には、木材販売業者等が介在する場合が含まれる(ただし、「直送」を通過するものを除く)。

4: 製材工場及び合単板工場から木材チップ工場及びペレット工場への矢印には、製紙工場、発電・熱利用施設が製材工場及び合単板工場から直接入荷したものが含まれる。

出所) 林野庁「令和2年度森林・林業白書」、<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/R2hakusyo/zenbun.html>、2022年3月15日取得

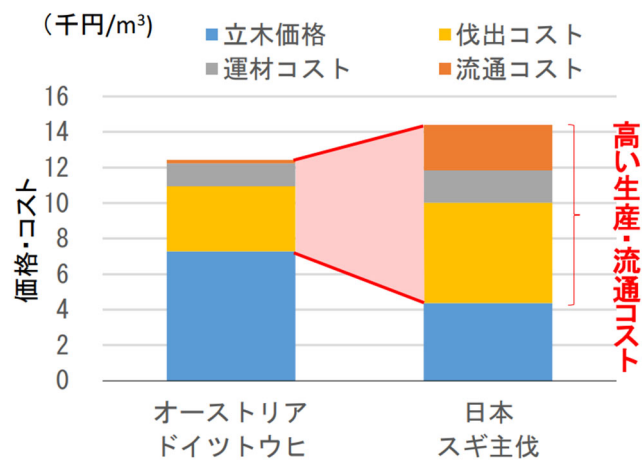


図 2 原木価格におけるコスト

注) 伐出コストは山土場までのコスト。

運材コストは山土場から原木市場 までの運賃(オーストリアは直送による木材加工工場までの運賃)。

流通コストは市場経費に原木市場から木材加工工場までの運賃 (オーストリアは工場側手数料のみ)。

資料) 国立研究開発法人森林研究・整備機構

出所) 林野庁「令和2年度森林及び林業の動向」、

https://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/singikai/attach/pdf/201126_2-1.pdf, 2022 年 3 月 15 日取得

2. 実施概要

2.1 委員会

2.1.1 設置の目的

原木・木材製品の輸送実態の把握に向けて、川上・川中及び物流の専門家の視点から論点を抽出するため委員会を設置した。委員会では、ヒアリング調査等による川上から川下までに至る輸送実態と課題に関わる調査項目、輸送効率化を妨げる要因、対応手法等について分析・議論していただくなど助言をいただくこととした。

2.1.2 委員名簿

検討委員会の委員は原木及び木材製品の輸送に関わる知見を有する学識経験者と実務経験者で構成した。

表 1 委員名簿

委員(敬称略)	所属
学識経験者	
齋藤 実	学校法人神奈川大学 経済学部経済学科 教授
黒川 久幸	国立大学法人東京海洋大学 学術研究院流通情報工学部門 教授
早船 真智	国立研究開発法人森林総合研究所 林業動向解析研究室
実務経験者	
鈴木 信哉	ノースジャパン素材流通協同組合 理事長
林 雅文	株式会社伊万里木材市場 代表取締役
横谷 圭二	西垣林業株式会社 上席執行役員

2.1.3 委員会開催日程

検討委員会は 8 月、12 月、2 月と合計 3 回開催した。

表 2 委員会開催日程

開催	日時	主な論点、検討事項
第 1 回	2021 年 8 月 25 日 13:00~15:00	輸送に関わる全般的な課題の洗い出し、調査方法の決定
第 2 回	2021 年 12 月 6 日 10:00~12:00	ヒアリング結果の中間報告
第 3 回	2022 年 2 月 28 日 14:00~16:00	ヒアリング結果報告、報告書作成に向けた取りまとめ

2.2 事業者ヒアリング

2.2.1 ヒアリング対象地域

原木・木材製品輸送における実態調査として、現場の様子が分かり、より率直な意見を求めてなるべ

く現地調査を優先として企画した。対象地域は、検討委員会委員の助言が得やすい、東北地区(岩手県)・近畿地区(奈良県)・九州地区(佐賀県、宮崎県)を選定した。

2.2.2 ヒアリング対象者及び日程

原木・木材製品の輸送を主に行っている輸送事業者や、自社保有車両又は委託にて原木・木材製品の輸送を行っている素材生産事業者、製品製造・加工事業者等をヒアリング調査の対象とした。新型コロナウイルス感染症の流行状況を考慮して、比較的に感染状況が落ち着いていた 2021 年 10 月以降をヒアリング実施期間と定めて実施した。

さらに、原木・木材製品輸送業界が抱えている課題についてより明確にするため、一般輸送業界の先行事例についてもヒアリングを行った。

表 3 ヒアリング実施日程

地域区分・事業所	所在地	実施日・手法
東北地区		
株式会社工藤材木店 滝沢営業所	岩手県滝沢市	2021 年 10 月 13 日(訪問)
株式会社古里木材物流	岩手県盛岡市	2021 年 10 月 13 日(訪問)
株式会社ウツティかわい/有限会社川井林業	岩手県宮古市	2021 年 10 月 18 日(訪問)
岩手県森林組合連合会 盛岡木材流通センター	岩手県紫波郡	2021 年 10 月 18 日(訪問)
有限会社二和木材	岩手県滝沢市	2021 年 10 月 19 日(オンライン)
有限会社クレイワーク	岩手県八幡平市	2021 年 10 月 21 日(電話)
株式会社三栄興業	岩手県遠野市	2021 年 10 月 22 日(電話)
近畿地区		
西垣林業株式会社	奈良県桜井市	2021 年 11 月 11 日(訪問)
村上木材	奈良県桜井市	2021 年 11 月 11 日(訪問)
会社名非公開	奈良県桜井市	2021 年 11 月 11 日(訪問)
会社名非公開	奈良県桜井市	2021 年 11 月 11 日(訪問)
岡矢商運	奈良県橿原市	2021 年 11 月 11 日(訪問)
天馬運輸株式会社	奈良県宇陀市	2021 年 11 月 12 日(訪問)
カクキチ木材商店	奈良県吉野郡	2021 年 11 月 12 日(訪問)
上吉野木材協同組合	奈良県吉野郡	2021 年 11 月 12 日(訪問)
豊永林業	奈良県吉野郡	2021 年 11 月 12 日(訪問)
九州地区		
西工業株式会社	佐賀県佐賀市	2021 年 11 月 24 日(訪問)
株式会社田中木材	佐賀県伊万里市	2021 年 11 月 24 日(訪問)
西九州木材事業協同組合	佐賀県伊万里市	2021 年 11 月 25 日(訪問)
株式会社伊万里木材市場	佐賀県伊万里市	2021 年 11 月 25 日(訪問)
木脇産業株式会社/万ヶ塚運送株式会社	宮崎県都城市	2021 年 12 月 10 日(訪問)
会社名非公開	宮崎県都城市	2021 年 12 月 10 日(訪問)
会社名非公開	非公開	—
その他		
株式会社 NX 総合研究所	東京都千代田区	2022 年 1 月 19 日(オンライン)